

名 称	せたな町教育委員会大成教育事務所
所 在 地	〒043-0595 北海道久遠郡せたな町大成区都427
連 絡 先	TEL : 01398-4-5511 (内線2204) FAX : 01398-4-2005 URL : http://www.town.setana.lg.jp/

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 せたな町 10,500人（大成区 2,300人）

本せたな町は、平成17年9月に隣接する3町（旧北檜山町・瀬棚町・大成町）が合併し、北海道渡島半島西部に位置している。「つくり育てる産業の振興」「四季を通して楽しむ食とレジャー」により地域の活性化を目指している豊かな自然に恵まれた町である。

現在、町では、総合的な学びの環境整備を進め、町民の誰もが楽しく充実した「学び」を体験し継続できる「学びのネットワーク環境」の構築に積極的に取り組んでいる。

本町の現状は、少子・高齢化により人口の減少が進む中、共働き家庭の増加や社会的な子どもに関わる犯罪行為などにより、子どもが安全に過ごせる環境づくりが急務となっており、関係団体・機関及び学校が組織する「子どもの安全を守る連絡協議会」を各区に設置し、子どもの登下校や遊びの場の安全確認などを体系的に行っている。

また、これまで培ってきた地域教育力をより一層発揮できるように、学びのネットワークを進め、地域や住民のつながりを十分に活かしながら、様々な連携やコーディネートにより、コミュニティ形成を中心とした体験活動の促進を図っている。

事業の名称、活動概要

名称 「土曜日チャレンジクラブ」

子どもたちの生活基盤となる地域において、子どもたちが有意義に休日を過ごせるよう、学校・家庭・地域が連携し、様々な体験プログラムの提供を行っている。特に異年齢間の様々な体験活動を通し、触れ合いの中から地域全体で子どもを育てる気運の高まりに期待している。また、事業の実施を通し、地域コミュニティ形成を中心とした地域教育力の向上を目指している。

事業の実施に至る背景、連携、協働のねらい

子どもの体験活動の充実については、完全学校5日制の導入に伴い、学校・家庭・地域が連携し、活動基盤づくりや学習環境の整備を積極的に行ってきた。また、スポーツ少年団や部活動などの組織的な活動も積極的に進めてきたが、現在は区を中心地区の児童生徒に活動が限られてしまっているという課題が生じている。そのために、日常活動の機会が少ない地域の活動支援や、地域全体の活性化を図るための学校・家庭・地域の連携・協働の取り組みが急務となっている。対象となるH小学校児童に対しては、これまでも、小規模校の特性を活かし、異年齢によるグループ活動を計画的に地域で行うなど、支援センターとしての取り組みを進めてきたが、指導體制や施設利用に関する問題からうまく軌道に乗せられなかったが、今では、この学区で、町内会や女性団体による地域学習が活性化し始め、学習者層の拡大が見られるようになってきている。

今後は、地域の団体や学校と連携し、住民の知識や活動をプログラム化して地域活動の充実を図るとともに、大人としての社会参加意識の高揚と開かれた学校づくり及び地域教育力の向上を目指すこととした。

事業の内容

① 事前準備として行った取り組み（企画段階）

完全学校5日制の実施を背景に実施したアンケート調査では、組織的な活動をしている子どもたち以外の親の大半が「体験的な活動が必要」、また、子どもの大半が体験的な「何かをやってみたい」と答えていることから、まずは、学校の協力を得て学校内にチャレンジボックスを設置し、子どもたちがどんなことを体験したいのかを知るため情報収集を行った。

また、地域学習の内容についても、子どもとの交流が積極的に図られるよう地域住民と協議し、子どもたちとの共通する分野について提供できるプログラムを考案した。

活動場所としては、地域集会施設及び学校施設とし、施設管理者及び学校関係者の理解と協力を得る体制をつくった。

その他の活動として、PTAや親が積極的に一緒に参加するよう広報誌を発行し啓発を行った。

② 活動の展開内容（活動段階）

土曜日チャレンジクラブは、青少年の任意団体とし活動者の募集を行った。

活動内容は、団体や学校事業との調整を図りながら、特に体験したことが学校経営に活かされたり、学校外でも授業内容が深まるなども考慮できるよう教頭先生と相談して年間プログラムを企画した。

各事業の概要は次のとおり。

○チャレンジクラブの結成

○地域学習への参加・独自プログラムの開催

H小学校は地域とのつながりが大変強く、日常的に地域住民の協力を仰いで学校経営が進められているが、学校以外の場所で行われる地域学習を土曜日に設定することで、チャレンジクラブが参加しやすい状況とした。また、独自の体験プログラムについては、地域住民にも参加していただくなど、触れ合い交流の効率化を図った。

具体的なプログラムとして、「七宝焼」「そば打ち」「グラウンドゴルフ」「連だこづくり」「バードテーブルづくり」「ウッドクラフト」などを、地域の有識者・教員・教育委員会職員が講師となって進めた。

○ウィークエンド活動促進事業

ウィークエンド活動促進事業は、完全学校5日制に対応した旧町時代からの教育施策であり、児童生徒が土曜日を活用して計画的に体験できるよう実施されてきている。今日では住民の体験活動の場、触れ合い交流の場として定着し、全区民が対象となる自由参加型のプログラムとなっている。チャレンジクラブとして計画的に参加させ、他校の児童や他地域の住民との触れ合い交流を促進させた。

<ウィークエンド活動促進事業実施プログラム>

時期	体験プログラム	内 容（主管団体等）
5月	春の自然観察会	野の花や動植物の観察・山菜採取（教委）
6月	ティーボール交流	小学生以上混合のティーボール（体協）
7月	グラウンドゴルフ交流	幼児から高齢者まで参加のグラウンドゴルフ（教委）
7月	交通安全街頭啓発	夏の交通安全週間に併せた街頭啓発（少年団体）
8月	夏の自然観察会	夏の星座観察（教委）
9月	秋の自然観察会	野の花や動植物の観察（教委）
9月	区民歩こう会	ハイキング・軽スポーツ交流（教委）
10月	区民駅伝競走大会	1チーム4人編成の駅伝競走（体協）
1月	区民スキー大会	大回転タイムレース・雪中レク（体協）
2月	冬の自然観察会	冬に飛来する渡り鳥の観察（教委）

③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

子どもの計画的な活動について保護者の関心は高かったが、家庭事情により一緒に参加し取り組むことに対しては消極的であった。また、地域的にも高齢者が多く、限られたプログラムでのスタートになってしまった。しかし、回数を重ねていくごとに、触れ合い意識が高まり、多くの保護者や地域住民の参加や関わりを得ることができるようになってきた。

事業に関する経費は、基本的には全額自己負担としているため、プログラムによっては

多額の経費が必要となる。現在はプログラムごとに町教委（教育事務所：支援センター）と地域・保護者と協議して行っている状況である。

また、遠方に移動しての体験活動については、できる限り保護者の協力を得ることとしているが、スケジュールによって一部の保護者に負担が偏ってしまう場合が多い。

情報提供・参加者集約等については、学校の全面的な協力を得て行っている。また、活動全般について、校長先生や教頭先生と協議することでスムーズな取り組みが継続されている。

事業の成果と今後の課題

事業の成果としては、①日常的な活動機会が少ない地域においては、学校・家庭・地域が協働することにより、子どもの自主性や積極性が高まり地域活動の充実につながった。②学校と地域、子どもと地域住民のつながりが一層深まり、学校支援にも大きな理解と協力を得られるようになった。③家族ぐるみでの参加や地域住民との触れ合いにより、今後のあるべきコミュニティー像を形成することができた。

このように現段階では、地域で子どもを育てる意識をなくさないよう、地域のコミュニティー形成を中心とした取り組みの継続が必要といえる。また、同様の課題がある他の学校区への支援を進めるとともに、触れ合い交流に関する智恵やアイデアを気軽に相談できる「支援センター」づくりを進めていく必要性を感じている。

また、課題としては、①「共働きの多い」「少子」「高齢」地域のため、今後の地域活動を支える人材の確保が困難な状況であること。②家庭環境を考えたとき、土曜日ばかりでなく、放課後活動も視野に入れた取り組みが必要であること。そのためには、学校の全面的な理解と協力が必要であり、数年後から入学者0人が続く見通しのため、チャレンジクラブの継続自体が困難となる状況でもあることから、今後も望ましい実践方法について協議を深めていく必要がある。

ウィークエンド活動促進事業

<グラウンドゴルフ>



<交通安全街頭啓発>



地域学習

<そば打ち>



自主プログラム

<ボードテーブルづくり>



執筆者職・氏名：せたな町教育委員会社会教育主事

大成教育事務所 社会教育係長 杉村 彰

コーディネーターからの一言コメント

保護者や子どもたちの体験活動に対するニーズ調査の結果を参考にしてプログラム編成の参考にしている。この結果を受けて四季折々に自然観察の機会を子どもたちに提供地域学習と結びつけるなどの工夫が見られる。

(木村 清一)